

学校教育目標

自立 志を高く掲げ、自立して“いきる”力を身につけよう【“いきる”力になる学力と礼儀正しき】
貢献 豊かな人間性を磨き、社会に貢献する道を切り拓こう【身近な社会（学級、学校、地域）で役に立つ】
創造 たくましく心身を鍛え、希望に満ちた未来を創造しよう【仲間と共に活動を創りあげる喜び】

SEISHO PRIDE（目指す学校像・生徒像）

【自立】 さわやかな挨拶・自ら進んで学習
【貢献】 活力ある生徒会活動・いじめの根絶
【創造】 響き合う合唱・成長し合える仲間

自主性・主体性の育成※

○コミュニケーション力（言語能力、情報活用能力） ○問題発見・解決能力 ○協働する力

目指す教師像

～「よき社会人、指導者、理解者、支援者」としての教職員～

- 豊かな感性と社会性を身につけた教師
- 自ら指導力を磨く教師
- 生徒・保護者と信頼で結ばれる教師
- 全校的な視野に立ち、協働と教育に取り組む教師

重点取組事項

昨年度のコロナ禍における学校運営における成果と課題を踏まえ、教育活動を力強く推進する

↓

- ①教育の効果の最大化－「自主性・主体性」を核としたカリマネによる教育課程の改善と実施
- ②授業改善の徹底（ICTの活用と個別最適な学びと協働的な学び）
- ③目的的な特別活動の推進（生徒指導の3機能）
- ④新しい生活様式を踏まえた体育的行事の推進

1 学校経営の基底

「教育効果の高いチームとしての学校づくり⇒信頼され活力ある学校づくり」の推進

それぞれの専門性を有し持ち味の異なる教職員が、「目指す15歳の子どもの姿」を共有し、組織の一員として自らの役割を果たしながら繋がることで高い教育効果を生み出します。そして、ここに活力が生まれ、保護者や地域からの信頼が醸成されます。この活力と信頼こそが、子どもの確かな成長を保障する学校経営の基盤となります。

生徒第一主義（生徒にとって意味や意義があるか。生徒の成長につながるか。）

学校のすべてのマネジメントに共通する要諦は、子どもとの学び合いの事実にあることです。教育課程を実施する学校にあって、このマネジメントの責務なしに先生の役割は意味を成さないものです。子どもの具体的な姿をもって教育活動の検討を行い、その成果を確認します。

働き方改革の着実な推進—北海道アクション・プラン」の目標に迫る

- ①目標を共有しベクトルを揃えた組織的な取組で、効果的で効率的な学校運営の推進する
- ②目標と手段の視点から、「やめる・減らす・変える」の発想で業務を見直し、まずは学校としてできることから業務のさらなるスリム化と効率化、さらには負担感の軽減を図る
- ③「苫小牧市部活動ガイドライン」の完全実施。
- ④上記の取組により教職員に潤いと活力を生み、教育活動の質を高める。

安全・安心を守る

生徒や保護者、地域からの信頼なくして学校教育を推進することはできない。その最も重要な土台となるものは「生徒の安全・安心」である。胆振東部地震等の経験をもとに改訂された「苫小牧市学校防災マニュアル」に基づき、学校危機管理マニュアルを見直し、保護者や地域と共有することで、より実効性あるものにする。

さらに、交通違反・事故の防止を入口に、「指導する 子どもに恥じない 行動を」を合言葉に体罰の禁止や個人情報の保護・管理の徹底等の服務規律の遵守に引き続き努める。

※「自主性・主体性」と「コミュニケーション能力（言語能力、情報活用能力）」「問題発見・解決能」「協働する力」について

○自立と共生の基盤となる「^自自主性・^{試行錯誤}主体性の育成

自立した人間として他者と共によりよく生きる（「自立と共生」）ことは、北海道教育の基本理念とするところ。その基盤として、中学生という発達段階を踏まえ「自主性」「主体性」の育成を重点とする。

「自主性」と「主体性」の押さえは、それぞれ次の通り。

「^自自主性」…目標の達成に向けて、なすべきことに自発的に、率先して取り組む態度。やるべきことをきちんと把握し、自発的に、正確かつ迅速になすべきことに取り組む生徒像を目指す。

「^{試行錯誤}主体性」…なすべきことを考え、判断し、責任をもって取り組む態度。自らの取組を振り返り、成果と課題を踏まえて改善と充実を図っている生徒像を目指す。

○「コミュニケーション能力（言語能力、情報活用能力）」「問題発見・解決能」「協働する力」

①言語能力

言葉は、生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や基盤となるものである。教科書や教師の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、他者の思いを受

け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。したがって、言語能力の向上は、生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視する必要がある。

また来るべき Society5.0 を見据え、生徒に身に付けさせるべき資質・能力として、数学的思考力とともに基礎的読解力が基盤的な学力としても位置づけられている。

②情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。将来の予測が難しい社会において、情報を主体的捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには情報活用能力の育成は重要となる。

この情報活用能力も、Society5.0 を見据え、生徒に身に付けさせるべき資質・能力である。

③「問題発見・解決能力」

物事から問題を見だし解決を目指し実行し、それを振り返り新たな問題発見・解決につなげていく過程を重視した深い学びを各教科等で実現する。さらに、総合的な学習の時間における横断的・総合的な探求課題や、特別活動における集団や自己の生活上の課題にも取り組み、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できるようにする。

④協働する力

「協働性」について、次のように共通理解を図る—他者と目的や課題を共有し、互いの良さを生かし、多様性を尊重して、課題解決を目指す態度。

学校だからこそその学びの機能であり、また学習指導要領が要請する主体的で対話的な深い学びを実現にも資する態度となる。この「協働性」を育成する上で、次の事項に留意する。

- ・他者と目的や課題を共有
- ・互いの良さを生かし、多様性を尊重
- ・課題解決を目指す態度

まずは自分なりの意見や考えをまとめたり作品を作成したりする。そして、共有した集団の目標を意識し仲間と関わっていく。課題解決を目指し、この交流を実行することで、互いが価値ある他者となり、協働性が培われることとなる。さらに、ゴールに到達したあとに、他者とのかわりに着目した視点を意図的に設定し振り返らせることで協働性の質を高めていくことになる。

2 経営活動に係る事項

- (1) 学校教育目標の具現化に向けて、職員の創意や地域の特性を生かし、知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施し、評価・改善を進める
 - ① 教育目標と具体的な教育活動との関連を図ると共に、育成すべき資質・能力を適宜見直す
 - ② 家庭・地域と育成すべき資質・能力を共有し、創意に富む教育課程の編成に努める
 - ・「確かな学力」の向上に向けての創意工夫
 - ・学校行事の精選、工夫改善
 - ・指導計画の工夫、改善、評価
 - ・授業時数の確保の徹底

- ・個別最適な学びと協働的な学び
 - ・体験的な学習の充実
 - ・地域行事、ボランティア活動への積極的な参加
 - ・地域の人的、物的資源の活用
 - ・読書活動の推進
- ③ 教育課程の評価、改善を目指す実践記録の累積を工夫し、指導と評価の一体化を図る
- ④ 道徳のみならず、全ての教育活動を通して、思いやりの心、寛容の心、感謝の心を育み、法やきまりを守る態度を育て、よりよい人間関係の構築を図る
- (2) C4th を活用し機動的かつ効率的な意思疎通を図り、チームとしての組織運営体制を進める
- ① 校務分掌による責任体制の確立と連携、調整を密にする
 - ② 担当者の意欲、着想、計画性を尊重した各会議の励行に努める
 - ③ 学校評価（外部評価を含む）の実施により、計画、実践の改善に努める
 - ④ 経営参加意欲の高揚と協働体制の確立を図る
- (3) 学年段階を踏まえた目標の重点化を図り、生徒一人ひとりが個性を伸ばし、自己実現を図る学年・学級経営の充実に努める
- ① 経営ビジョンの明確化と学年、学級の一貫した経営の充実と指導の具現化を図る
 - ・学年・学級目標の具現化を生徒の姿で検証し、生徒の変容を共有する
 - ・他学年との情報や意見交流の充実と協働を図り、学校としての調和を図る
 - ② 生徒一人ひとりを大切に、信頼と共感を基調とした学級経営を推進する
 - ・個々の生徒の良さを生かし存在感を持たせる学級組織作りと活動の活性化を図る
 - ・生徒理解と集団への適応を図るために話し合い活動や教育相談を充実する
- (4) 広い視野に立ち、教職員としての実践的指導力を高めるための日常実践と研修活動の充実に努める
- ① 学校教育目標の具体化、課題解決のための研修体制を確立する
 - ② 日常実践（評価の改善、ICT 機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現）に結びつく研修活動を進める
 - ③ 広く他校の実践や研究団体の成果に学び自己啓発の深化を図る
- (5) 創意ある温かい心のふれあう教育環境づくりに努める
- ① 教材・教具の計画的な整備と効果的な活用に努める
 - ② 施設設備の充実に努め、安全のための点検活動の日常化を図る
 - ③ 環境美化や公共物愛護の意識を高め、よりよい環境づくりを実践する態度を育てる
 - ④ 校舎の環境整備と言語環境の整備に努める（図書館教育や掲示教育、放送活動の充実）
- (6) 地域や保護者及び関係機関との連携を深め、「地域とともにある学校づくり」に進める
- ① 学校、学年、学級だより等の広報活動（ホームページ）に努め、地域や保護者の学校に対する理解を深め、信頼関係の強化する
 - ② P T A 組織の主体的な活動の推進及び行事への参加体制づくりに努める
 - ③ 青少年の健全育成を目指した校区連絡協議会の活動の充実に努める
 - ④ 地域の課題を解決する小・中学校の連携・一貫した指導と実践化を進める
- (7) 安心・安全な教育環境を整備する
- ① 危機管理マニュアルを定期的に見直し、家庭、地域と共有し、実践的な活用を図る
 - ② 不審者や変質者等による事故の発生を未然に防止するとともに、事故発生の場合、警察や町内会等に対し、生徒の安全確保への協力を要請する
 - ③ さくら連絡網の活用等により家庭・地域との情報連携を強化し、必要に応じて安全確認や巡回指導などの行動連携に努める

3 教育指導に係る事項

- (1) 基礎・基本の定着を図り、自主的・主体的に学ぶ力を育てる学習指導を推進する
 - ① 個別最適な学び（e ライブラリ）と協働的な学び（PBL等）の実現
 - ② 基本的な学習態度や主体的な学習習慣の定着を図る
 - ③ ICTの整備と効果的な活用を進める
 - ④ 授業の改善と生徒の変容の把握に直結する指導と評価の一体化を進める
 - ⑤ 生徒の学力保障のための授業時数の確保する
 - ⑥ 各種調査・検査等の結果、分析と改善への対応（エビデンスに基づく教育活動の改善）

- (2) 思いやりの心・寛容の心・感謝の心を育み、法やきまりを守る態度を育て、よりよい人間関係を育てる道徳教育の充実に努める。
 - ① 道徳教育推進教師を中心に、道徳の時間を要とした道徳教育の改善と充実に努める
 - ② 家庭や地域社会との連携を図った体験的な道徳教育の推進に努める

- (3) 生徒指導の3機能を活かした目的的な特別活動を推進する
 - ① 生徒会の自主的・創造的活動を推進し、自治的な生徒集団に高める
 - ② 目標を焦点化した学校行事を運営し、その達成によりねらった資質・能力を確かに育むとともに、生徒の連帯感や所属感を醸成にも資するものとする
 - ③ 学校や学級への所属感を感得させ、適応指導を目指す学級活動の充実に努める
 - ・学級活動の指導内容や実践計画の定期的な改善
 - ・一人ひとりが生かされる学級活動の工夫と改善
 - ・個々が大切にされ、互いに認め合う学級づくり
 - ④ 勤労生産的体験や郷土の伝統文化・自然体験及び奉仕活動に目を向けさせ、主体的に参加し実践する態度を育成する→将来の地域社会の担い手
 - ⑤ 子ども読書の日（4月23日）に対応する啓発活動と読書活動の充実に努める。

- (4) キャリア教育や体験的学習を重視し、自ら課題を見つけ、問題解決できる総合的な学習の時間の充実に努める
 - ① 横断的・総合的な課題や生徒の興味・関心などに基づく課題、地域の課題などについて、発展的に学習が展開されるよう、小学校との関連や中学校3年間を見通した指導を行う
 - ② 評価の観点を明確にし、指導過程や指導内容・方法の改善に生かす評価の工夫に努める

- (5) 3機能を活かした生徒指導を組織（学年・学校）として推進する
 - ① 基本的生活習慣の育成は、生徒個々はもとより集団の規律として質的に高められるよう納得と共感を基盤にした指導を大切にする
 - ② 全教師が共通理解にたった共通実践活動の推進（その場指導の徹底、事例研修会の充実）
 - ③ 生活部と学年、学級との連携及び学年間の交流
 - ④ 生徒の意識や実態を把握する中で、生徒理解に努め共感的理解（カウンセリングマインド）にたった教育相談の充実と日常化に努める
 - ・各種調査や検査による実態把握
 - ・相互信頼関係の確立
 - ・専門的な生徒理解やカウンセリングの研修
 - ・計画的、偶発的な教育相談の実施
 - ⑤ 不登校やいじめ等への適切かつ組織的な対応及び関係機関との連携を強化する
 - ⑥ 問題行動の未然防止や早期発見に努め、校内外の秩序と安定を保つ
 - ・日常の観察点検活動と情報交換の充実
 - ・問題行動への組織的な即応と連携
 - ・生徒の動向把握
 - ・家庭や地域社会及び関係機関との連携強化

- (6) 自らの在り方や生き方を考え、人生の目的意識を高める進路指導の充実に努める。
- ① 3年間の展望に立ち、体系的な指導計画に基づいた具体的指導を進める
 - ② 自己の能力や適正を踏まえ進路選択ができるよう、各種資料を収集・累積し活用する
 - ③ 進路選択に関して家庭への啓発を図るとともに、進路事項を的確に遂行する
- (7) 自他の生命を大切にし、心身ともに健康で安全な生活を営む能力や態度を育てる健康・安全指導を進める
- ① 自他の生命の尊重する態度を育成する
 - ② 保護者や地域社会、関係機関（講演会等）と連携し心の健康及び性・薬物乱用防止に係る指導の充実に努める（保健学習や学級指導等）
 - ③ 防災教育を充実させ、防災リテラシーを育成する
 - ④ 清掃美化への意識を高め、校内外の美化や衛生的な環境の保持する
 - ・汚さない、散らかさない指導
 - ・奉仕の心や協働の心の育成
 - ・清掃指導の点検活動と事後指導
 - ⑤ 地域ぐるみ交通安全指導に取り組み、交通安全意識の高揚と実践的な行動力を育てる
 - ⑥ 諸活動における傷害や事故の防止の意識を高める
- (8) 将来の社会的自立を目指し、特別支援学級での障がいの種類と程度に応じた適切で思いやりに満ちた特別支援教育を推進する
- ① チェックリストや指導事例研修等を活用し、生徒一人ひとりの実態とニーズを正確に把握する
 - ② コーディネーターを中心として、エリアや外部機関や保護者との連携を図る
 - ③ 小・中学校間の早期の情報交流（引継）、校内教育支援委員会での取組を通して、教職員の理解と協働並びに関係機関の支援を受けた指導体制・校内体制を確立する
 - ④ 生徒相互の理解を深める交流学习・共同学習を推進し、自立に向けた集団参加や適応力の向上に努めるとともに、障がいへの理解を深めノーマライゼーション社会の実現に資する
- (9) 苫小牧市部活動ガイドライン（青翔中学校に係る運動部活動の方針）の完全実施により持続可能な部活動体制の整備を進め、教育課程との関連を図りながら学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する部活動を推進する
- ① 学校教育の一環として、教育目標の実現や教育課程との関連を図られるよう留意する
 - ② 自主性や主体性を基盤とした活動を推進し、責任感や連帯感を涵養する
 - ③ 部活動顧問の負担を全教職員が理解し合い、協力体制を築く